

新選組白書 ～追憶の Honest～

池田屋に集まった新選組の隊士

局長、副長、総長、参謀、観察方に勘定方、そして一番隊から十番隊の組長達
つまりは新選組の有名人全員集合ってわけだ

これから始まる池田屋襲撃の軍議を開き・・・ってちよっと待て
池田屋事件にはいなかった人間が混じっているぞ

しかも池田屋事件の打ち合わせを池田屋で開催ってどういう事？

そこに拡声器が鳴り響き

「ここは魂の回廊じゃけ、おまんらがやり残し、置き忘れたものを見つけるがよかよ」と、何処から語り掛ける坂本龍馬

幕末の動乱を駆け抜けた者達が、新時代に誠の意味を伝えるため過去を巡り

其々に起こった出来事を振り返る新選組白書

果たせなかった想いを見届けた時、隊士達はどこへ向かうのだろうか

登場人物

筆頭局長…芹沢鴨

局長…近藤勇

局長…新見錦

副長…土方歳三

総長…山南敬助

参謀…伊東甲子太郎

一番隊組長…沖田総司

二番隊組長…永倉新八

三番隊組長…斎藤一

四番隊組長…松原忠治

五番隊組長…武田観柳斎

六番隊組長…井上源三郎

七番隊組長…谷三十郎

八番隊組長…藤堂平助

九番隊組長…鈴木三樹三郎

十番隊組長…原田左之助

観察型…山崎丞

観察型…島田魁

勘定方…河合耆三郎

伍長…加納鷲雄

土佐藩 海援隊…坂本龍馬

『少年よ そして かつての自分よ』

作詞：輪島貴史 作曲：タクトくん 編曲：植村カンナ

いつか言葉の壁を知る君は 同じ邦(くに)でも伝わらぬ事に
苛立ちを隠す事さえ忘れ 信じた人を敵だと疑う
親ですら仲間ですさえも信じず 自ら一人 己ですさえも信じられず

少年は世界も知らず 時の中で彷徨(さまよ)い
少年は世界に怯(おび)え 時の狭間(はざま)に一人

ある日名前を呼ばれふと気付く その名を記憶に残せぬならば
ただの記号に過ぎないと悟り ただ生きるだけでは意味が無いと
紙に書いた名前はただの記録 胸から放ち 胸に伝えて記憶になる

少年は時間を見つめ 時を揺らし抗(あらが)う
少年は時間に向かい 時を刻み戦う

人の時間に刻まれた想いが 記憶に書かれ それらの数が歴史創る

少年はその名を名乗り 親の誇りを刻む
少年はその名を認め 友の想いを刻む
少年はその名を愛し 命を胸に刻む
少年はその名を胸に 命のために刻む

少年のその名は知られ 誰かの時間に響く
少年のその名は残り 誰かの記憶に届く

近藤勇 御用改めである
全員 うおおおおおおお！！！！

怒号が飛び交う中、新選組隊士達の戦いが始まる

近藤勇 歳！気をつけろ！

土方歳三 近藤さんこそ、頭は前に出るもんじゃない、せええ！

近藤勇 えいやあああ！今日だけは特別だ

土方歳三 違うない

沖田総司 はあっ！お二人に出られては一番隊の名が廃りますよ、しゃあああ！

永倉新八 うおおお！総司！隊列を整えろ！連携で行け！

沖田総司 必要ないんだけどなあ、せっ！せい！せええ！ほら、斎藤さんも

斎藤一 めううん！！御用改め、動くなと言ったろう

永倉新八 斎藤、尋問は後だ

斎藤一 だそうだ、よかつたなあ、めううん！

松原忠治 土方さん！援護します！

土方歳三 松原は俺と来い！谷は階段下で待ち受ける！

谷三十郎 はいはい、かしこまりましたよ

島田魁 土方さんいいんですか？あいつは前に立たしておいた方が

土方歳三 盾に徹してくればいいんだがな

松原忠治 後からいろいろ吹聴しそうですね

土方歳三 左之助！下は任せた

原田左之助 一人も逃がさねえよ、松原さん、どンドン蹴落としていいからな

松原忠治 でえええい！！

原田左之助 待ってました！うらあああ！

谷三十郎 そうそう、槍は引き手が肝心、速さの要は引き手から

原田左之助 うるせえよお！

近藤勇 源さん、あなたも階下からの援護を頼む

井上源三郎 盾に徹するゆえに、今日だけはお断りです

近藤勇 しかし

井上源三郎 お断りです

土方歳三 近藤さん、こうなったらテコでも動かねえよ源さんは

沖田総司 熱心ですね、さすがだなあ

井上源三郎 わかっているなら、のんびりせずに、自分の仕事をこなしなさい

沖田総司 せっ！せい！せええ！僕は剣に徹しますから、ここでは盾よりも剣だ

松原忠治 沖田君、ここは投げた方が早い、せやあああ！

沖田総司 北辰心要流柔術！武田さん！降ってきたらお願いしまーす

武田観柳斎 任せておきたまえ、おい、捕まえろ！今一人捕縛したから、

局長と土方さんによるしく伝えてくれ

沖田総司 え？なんですって聞こえないです！

武田観柳斎　だから！今ね、私が捕まえたから、近藤さんと土方さんに
沖田総司　投げたの松原さんです
武田観柳斎　だから！それ捕まえたから、近藤さんに
沖田総司　だから！投げたの松原さんです、近藤さんじゃないです
武田観柳斎　だから！
永倉新八　総司、あいつの相手はしなくていい、集中しろ
沖田総司　僕、あの人よく分らないんですよ
永倉新八　こびへつらう者、信用するな
沖田総司　いえ、してないんですけど、なんでそんな事するんだろうって

山南敬助　沖田君

沖田総司　え？山南さん

山南敬助　こびへつらうのは自信が無いからだよ

沖田総司　山南さん、屯所じゃないんですか？

山南敬助　居ても立っても居られなくてね

沖田総司　なら、刀はどうしたんですか？

山南敬助　刀はね・・・捨てたんだ

沖田総司　捨てたって・・・だつて僕らは今

山南敬助　芹沢鴨

沖田総司　はい・・・芹沢先生を・・・

山南敬助　君は土方君と行きなさい、私と原田君で平山を仕留める

原田左之助　ほらよ、三男さん

沖田総司　なんだ、刀、あるじゃないですか

山南敬助　これはただの凶器だからね、深く考える必要はない

ただし、刺すなら・・・深く・・・

原田左之助　やるじゃねえか

山南敬助　原田君、手筈通りに

原田左之助　首は俺が

芹沢鴨　てめえらあ・・・

沖田総司　先生！御免！

芹沢鴨　ぐうう、そういう事かよ

土方歳三　せええ！

芹沢鴨　ぐおおおお・・・はは・・・総司・・・土方・・・

原田左之助　なんだよ仕留めろよ

山南敬助　手筈通りに

芹沢鴨　それに・・・山南に原田か、近藤はいないのか？

土方歳三　神輿は汚せねえよ

芹沢鴨　新見は？あいつはなんて言っていた？

土方歳三　あとは頼んだ、だったかな

芹沢鴨　ぎゃはは、嘘だな、それがお前らの誠かよ

土方歳三 あんたに言われる筋合いはねえよ
芹沢鴨 俺の誠はな、女だ
土方歳三 金、女、その結果がこれだよ
芹沢鴨 女を売って、女を買って、線を引きお前らだろ

俺は線なんか引いてねえ、引いた覚えなんかねえよ
国のやってる事と俺のやってる事、何が違うんだ？
そうかよ、お前らもそうやっていくんだな・・・消させねえ
消させねえよ、お梅！行け！
手筈通りに・・・御免！

山南敬助 お梅・・・はは・・・賊だな、賊と変わらねえ
芹沢鴨 賊はてめえだ、ぬうううう！

土方歳三 ぐおおお！
芹沢鴨 総司！

土方歳三 せえあああ！！
芹沢鴨 ぐふうう！

山南敬助 朝廷から、藩からの命だ、それに従うまで
原田左之助 三男さんよ、本当に、俺じゃなくてよかったのか？

山南敬助 これは・・・ただの狂気・・・だからね、深く・・・考える必要はない
沖田総司 逃がすっていう方法も

山南敬助 ないよ、逃がした数だけ振り子のように返ってくるんだ
土方歳三 それが命取りになる

山南敬助 引き上げるぞ
原田左之助 手筈通りに

山南敬助 三男さん、先に行ってるぜ
沖田総司 ああ、私も、先に行くだろう、きっと

山南敬助 山南さん、刀・・・
沖田総司 あの時、原田君に持って行ってもらった、あれは・・・ただの凶器だからね

山南敬助 では沖田君、先に行ってるよ
沖田総司 山南さん！

近藤勇 総司、山南はなんと言っていた？
沖田総司 近藤さん・・・手筈は・・・屯所を・・・留守を守るのが任務である・・・

近藤勇 総司・・・今、会ったのだろう、山南と・・・お前に何を伝えた？
沖田総司 近藤さん、ここは・・・どこですか？胸が苦しいです

山崎丞 沖田さん、池田屋です
沖田総司 山崎さん

山崎丞 長州藩士の密会の場は、池田屋です
近藤勇 山崎よくやった、帰ってきたら写真でも撮ろうか

山崎丞 密偵には不要ですよ、記録にその名も不要です
近藤勇 日記は付けているのだろう？なら写真も撮っておけ

近藤勇

山崎丞

いいぞお写真は、その時に生きていた時間を切り取ってくれる
それがあればいつでもあの時に戻れる、記録は不要でも、記憶は大切にしろ
では、暇が出来た時にでも

沖田総司

僕は、自分を撮るくらいなら子供達を撮りたいですね

近藤勇

あの笑顔を見ると未来を感じずにはいられません
はっはっは、じっとしてないから撮れないだろう

沖田総司

あっはっは、土方さんと同じですね、じっとしてないもんなあ、あの人は

山崎丞

ふっふっふ、沖田さんもですよ

近藤勇

はっはっは、じっとしてられない奴らばかりだな、

沖田総司

歳も進めば少しは大人しくはなるだろう、その時の姿も見てみたいものだ
近藤さんが見たいだけじゃないですか、しょうがないなあ

じゃあいつか、土方さんと撮りますよ、近藤さん、山崎さんも、
一緒に撮りましょうね、頑張ってじっとしてますんで

山崎丞

では・・・暇が出来た時にでも・・・

SE・・蒸気船

土方歳三

山崎！

永倉新八

山崎！

一同

山崎！

山崎丞

やっとお暇を頂けます・・・沖田さん、一緒に撮れなくて・・・申し訳ない

沖田総司

山崎さん？どこですか？山崎さん！

近藤勇

山崎は良い奴だった、あいつはこんなに大勢の人に見送られて幸せだ

沖田総司

この時には、僕は・・・

山南敬助

沖田君、来てくれたのが君でよかった

沖田総司

山南さん

山南敬助

君にお願したい

近藤勇

総司、なぜ連れてきた

沖田総司

山南さんが、来ると言ったから

土方歳三

近藤さんが、お前に頼んだと言ったのはな！

沖田総司

土方さんがそう言ったんじゃないですか！

山南敬助

局中法度、土道に背きまじき事・・・刀は捨てました

原田左之助

なんでだよ！あんたの力が必要なんだよ！

山南敬助

土道に背きました、逃がせば振り子のように返ってくるんだ

それが命取りになる

伊東甲子太郎

山南さん、隊士を見回らせ、あえて抜け道を用意します

どうか、逃げて頂きたい、局内を手薄にした責任は私が取る

山南敬助

局中法度、局を脱するを許さず

永倉新八

山南さん、俺は今から厠に行く、その間にどうか

山南敬助

違反した者には切腹を・・・沖田君、君にお願したい

藤堂平助

山南さん！

松原忠治

三男さん！

一同

山南さん！

河合耆三郎

新選組において、親切者は山南と松原

一同

山南さん！

山南敬助

沖田君、君にお願いしたい

沖田総司

うあああああああ！！！！

沈黙

伊東甲子太郎

春風に吹き誘われて山桜 散りてぞ人に惜しまれるかな

吹く風にしばまんよりも山桜 散りてあとなき花ぞ勇まし

沈黙

沖田総司

ここは・・・どこですか？おかしいでしょう・・・

夢だと思ってました、あの頃の・・・夢だと思ってました

おかしいでしょう・・・胸が苦しいのに、苦しく吐く血はどこにもない

おかしいでしょう・・・ここは・・・どこなんですか

坂本龍馬

教えちやろうか？

沖田総司

誰だ？

坂本龍馬

貿易会社をやっちゅうもんじゃ

沖田総司

貿易？海は僕らの場所じゃない

土方歳三

貿易という名の武器商人だろう

近藤勇

取り締まるには十分な理由だな、歳

沖田総司

切っていいんですね、土方さん

坂本龍馬

切られとうない、切られとうない、二度とごめんじゃ

土方歳三

姿を見せろ、坂本龍馬

坂本龍馬

姿見せるには少しばかり遠い場所におるがぜよ、広ーい海からこの国の

行く末を見たもんとしては、あんたらにも教えたい事がありゆうがぜよ

土方歳三　この国の行く末だと？

坂本龍馬　まあ行く末いうたかて何も変わりやせん、自由になったかと思えば

不自由も増えてのお、それどころか外国からの脅威は増える一方じゃ

こんな時代だからこそ、おまんらみたいなのがおれば少しはマシになると
思うたがよ

もう一度、刀振るう時ぜよ、切られるべきもんらが切られずに野放しじゃ

土方歳三　その脅威とやらは貴様らが招き入れた結果ではないのか？

坂本龍馬　時代は止まらんぜよ、そして巡り、繰り返すがよ、今の日本に必要なのは

おまんらの力じゃ、治安維持には武力行使、なんも間違っちよらん

土方歳三　ならそこへ連れていけ、新選組が全て肅清しよう

坂本龍馬　そのためにはおまんらがやり残し、置き忘れたものを

見つける必要があるがぜよ

ここは魂の回廊じゃ、誠の一字に込められた追憶の記憶を駆け抜けるぜよ

『愛染〜AIZEN〜』

作詞…輪島貴史 作曲…タクトくん 編曲…植村カナ

浅葱(あさぎ)色からの純粋な恋

藍染(あいぞめ)の日々に沁みる体

始めは透明な童の歌

その意味を知る日 大人になる

帰らぬ人を待ち焦がれてた

貴方 探す旅が始まると

彼方 揺れる陽炎

遥(はるか) 道なき道を進めば

いつか 絡み合い愛に染まるはずだ

其々の想い幾何学模様(きかがくもよう)

其々に絡む夢(はかな)き色

戻らぬ時も振り向かず行く

夜空 集う星達密かに

夜光(やこう) 狙う天狼(てんろう)

白夜(びやくや) 瞬く火花散らせば

夜蝶(やちょう) 送り火が魂を鎮める

戦い抜けば逢えると信じ

独り 北へ行き貴方を待ち

駆ける 浅葱を纏(まと)い

誠(まこと) 一文字貫く刃

いつか 絡み合い愛に染めて 愛に染まり 愛に染まるはずだ

新見錦 ようこそ壬生浪士組の面々よ、お揃いで

近藤勇 局長、新見錦、この場で切腹願おうか

新見錦 理由をお聞かせ願おうか

永倉新八 風紀の乱れによるものだ

新見錦 風紀とは？その定義となるものをお聞かせ願いたい、例えば

その原田左之助君の風貌や振る舞いは風紀の乱れになると思うが

ぐぬぬ

原田左之助 だから風呂に入れと言ったんだ

井上源三郎 僕も臭いと思ってみました

沖田総司 否定はできませんね

藤堂平助 おいおい、今更なんだよ

原田左之助 それは今日を境に気を付ければよい事、注意という事で収まる話だ

原田左之助 三男さあーん

近藤勇 左之助には俺からも厳しく注意する事にしよう、だが新見、お前の場合

その行動が組織の乱れに繋がるものだ

酒癖の悪さとか

覚えていませんね

皆そう言うのですよ、覚えていないと、だから達が悪い

それが本性ですよ、酔った時の言動がその人の本性だ

酒の飲み方と煙の吸い方には本性が現れる

言いがかりとはこういう事だなあ、皆さん、調子に乗り過ぎなんじゃないか？

もっと飲んでもいいですよ、こういうのは本音で話すのが一番ですから

どうぞグイっと

そもそもとして、私の酒癖が悪っていうならねえ、斎藤君はどうなるんです？

人を斬ったでしょう

なんの話だ？

斬ったんだろお？酒飲むと人を斬りたくなるんだろう？お前はあ

斎藤、答える必要は無い

おかしいでしょう、藩からも追われ、江戸にも戻れないから

ここにいらっしゃる？だから入ったんだろここに？、お前みたいな奴がいるから

治安は乱れんだよ、そんな奴が京都の治安を守るだあ？笑わせんじやねえ

そこはいずれ入隊制限として明確にしていきましよう

我々は警察と呼ばれる機構ですから、犯罪経歴のある者は不可という制限を

せねばならない時もあるでしょう

今はまだその時期ではない、後付けの理由で人を裁くわけにはいかんからな

よかったあ！先に入れて、俺達いい時期に入れたな、斎藤

触るな、酒についてはいざれ控えよう

斎藤一

近藤勇

原田左之助

斎藤一

土方歳三
山南敬助

風紀の次は、金の私的流用だ
横領とも言いますね

新見錦
土方歳三

私的の定義ってのはなんだよ、公的に預かっているだけだが
ほう、預かっているのか？誰の許可を得て？

新見錦
近藤勇

もちろん筆頭局長から、そして局長の権限において
その預かっている金を何に使うつもりだ？

新見錦
山南敬助

給金の分配
分配？

新見錦

組織、国の平和には富の分配だ。最初から金のある奴、土地のある奴、
米の取れ高で権力や地位が決まっているのはおかしいだろう、
無い奴は生まれながらに人生詰んでんだぜ、だからそれは一度全て
国が回収するんだ、回収した後、平等に分配する

これで貧富の差がない平等な国になるんだ、そのための預かりだよ
なあ藤堂、お前なら分かるだろ？井上、あんたも少しくらいは

分かるだろう？強い奴から順番に給金が行くなら、お前らの分け前なんて
これっぽっちだぜ、俺のやり方なら今よりも給金増えるぜ

藤堂平助

確かに一理ありますね

井上源三郎

だが一理はあっても百里は無い、強き者の才能は評価されるべきだ、
そこに行きつくまでの努力も評価に値する、だがそれらを全て平等に

藤堂平助

分配されては公平を越えて不公平、平等という名の不平等というものだ
努力する動機が弱くなりそうですね、強さを求める必要が無くなる

山南敬助

強さに置き換えたのがまずかったですね

新見錦

こいつらにマルクス主義の話は分からないか

山南啓介

一見理想のように聴こえますが、それは机上の空論

土方歳三

現実、人の心はそんな簡単なものではない

新見錦

新見錦、そこじゃねえよ、そこじゃねえんだよ

山南敬助

俺からは二つだ。その考えで預かっているのは分かった、が、

山南敬助

なんでてめえだけこんな豪勢な事をしてやがる？

山南敬助

富を分配するなら毎日こんな遊びはできねえだろう？

山南敬助

結局は人に働かせた金でてめえだけが酒飲んで女抱いて

山南敬助

でかい屋敷に住んでる姿が目映るぜ、こういうのをな、

山南敬助

私的な流用っていうんだよ。そしてもう一つ、これが問題なんだ

山南敬助

なあ近藤さん

近藤勇

新見錦、その考えは幕府の有り方を否定する倒幕の思想だ

近藤勇

その思想を隊内に広めた、それが風紀を乱す行為であり、

近藤勇

倒幕思想の証拠として切腹を申し付ける

新見錦

うまくハマられたなあ、腹割った本音の話じゃなかったのかよ

沖田総司

僕はよく分からなかったですけど、

新見錦

とりあえず倒幕運動されちゃったら言い逃れはできないですね

新見錦

倒幕じゃねえって、給金の分配だって、マルクス主義だって

山南敬助

これは記録には残せませんね、この給金の分配論を支持する者はどの組織にも一定数はいるでしょう、不勉強な輩ほど、その表向きの考えには染まりそうだがそのような思想に一度でも染まれば聞く耳を持たなくなるのは想像に難くないそれは新選組の組織力の低下を表し、分裂崩壊の原因となる

永倉新八

とりあえず、倒幕運動になるのは理解した

土方歳三

だから連れてきたんだ。新見錦、解釈は俺がしてやる

新見錦

ハメラれついでに教えてやる、ラテン語のオネストの意味を知っているか？

山南敬助

それは、純粋だ。これは俺の純粋な想いだ、それは変わらない

土方歳三

残念ながら、オネストは、誠実とも訳されます

山南敬助

あなたの行動は、純粋ではあっても誠実とは思えない

NA・1863年

9月15日

局長

新見錦

切腹

NA・1863年

9月18日

山南敬助

原田君、手筈通りに

原田左之助

首は俺が

芹沢鴨

てめえらあ……

沖田総司

先生！御免！

芹沢鴨

ぐうう、そういう事かよ

土方歳三

せええ！

芹沢鴨

ぐおおお……はは……総司……土方……

原田左之

なんだよ仕留めろよ

山南敬助

手筈通りに

芹沢鴨

それに……山南に原田か、近藤はいないのか？

土方歳三

神輿は汚せねえよ

芹沢鴨

新見は？あいつはなんて言っていた？

土方歳三

あとは頼んだ、だったかな

芹沢鴨

ぎやはは、嘘だな、それがお前らの誠かよ

土方歳三

あんたに言われる筋合いはねえよ

芹沢鴨

俺の誠はな、女だ

土方歳三

金、女、その結果がこれだよ

芹沢鴨

女を売って、女を買って、線を引きいてんのはお前らだろ

俺は線なんか引いてねえ、引いた覚えなんかねえよ

国のやってる事と俺のやってる事、何が違うんだ？

そうかよ、お前らもそうやっていくんだな……消させねえ

消させねえよ、お梅！行け！

山南敬助 手筈通りに・・・御免！
芹沢鴨 お梅・・・はは・・・賊だな、賊と変わらねえ
土方歳三 賊はてめえだ、ぬうううう！
芹沢鴨 ぐおおお！
土方歳三 総司！
沖田総司 せえあああ！！
芹沢鴨 ぐふうう！
土方歳三 朝廷から、藩からの命だ、それに従うまで
原田左之助 三男さんよ、本当に、俺じゃなくてよかったのか？
山南敬助 これはただの凶器だからね、深く・・・考える必要はない
沖田総司 逃がすっていう方法も
山南敬助 ないよ、逃がした数だけ振り子のように返ってくるんだ
それが命取りになる
土方歳三 引き上げるぞ
山南敬助 手筈通りに

NA・1863年 9月18日 筆頭局長 芹沢鴨 暗殺

NA・1865年 2月23日

山南敬助 しばらくの暇を頂きたい、江戸へ行きます

沖田総司 土方さん、山南さんが・・・
武田観柳齋 おやおやおや、総長が、あらまあ、局中法度
永倉新八 山南、なぜだ
井上源三郎 なんとという事を
谷三十郎 これを逃しては示しがつきませんなあ
藤堂平助 まだ脱走と決まったわけでは・・・
鈴木三樹三郎 島原の遊女とではありませんか？
原田左之助 女？三男さん、女と逃げたっての？え、あの、なんだっけ
山崎丞 明里
原田左之助 そうそれ
武田観柳齋 女、あっちゃあ、女か、あっちゃあ、切腹だね、局中法度
永倉新八 武田、話を決めつけるな
土方歳三 武田、少し黙れ
武田観柳齋 はいすいません、黙ります
山崎丞 山崎、明里というのは
島原でも人気だそうで、山南さん、最近はよく島原に出入りしていたようです
土方歳三 間違いないのか？

河合蒼三郎

すいません、自分も連れて行ってもらった事があります

谷三十郎

戦線に出ないと思っていたらこれとはねえ、示しがつきませんなあ

松原忠治

屯所を空にはできないだろう、山南さんは防衛の要だ

谷三十郎

しかし勘定方の河合でさえ戦線に立っているんですよ

武田観柳齋

確かに、毎回自分から防衛を買って出ていましたからねえ

藤堂平助

臆病だったとも言いたいのですか？あとからあとから・・・

卑怯ではありませんか？

沖田総司

山南さんは臆病者なんかじゃない、芹沢さんの時だって

永倉新八

芹沢？

土方歳三

総司！今・・・試衛館や浪士組の話をしても仕方がない

武田観柳齋

試衛館、そう！試衛館！なんか試衛館組で庇いあつてるように見えるんだよな

土方歳三

武田！

武田観柳齋

はいすいません

土方歳三

その通りだ

武田観柳齋

あ、良かった

谷三十郎

試衛館鼻厘の話というのも示しがつきませんなあ、ねえ、近藤先生

近藤勇

そうだな・・・伊東君はどう思う？

伊東甲子太郎

ここは規律に乗っ取り、追っ手を向かわせるのがよいでしょう

鈴木三樹三郎

九番隊、向かいますか？

武田観柳齋

五番隊も動けますよ

永倉新八

武田、お前の魂胆は読めている、総長の座が欲しいだけだろう

武田観柳齋

いえいえ、そんなそんな

伊東甲子太郎

これは参謀としての提案ですが、隊を動かすのは得策ではありません

土方歳三

皆が山南総長を慕っているのは事実である以上、隊士にも遠慮が出る

伊東甲子太郎

総司、お前が行ってこい、お前なら捕縛の際に抵抗はしないだろう

伊東甲子太郎

それが得策かと、隊士への示しもつきます。ただし、行って宿場町、

行って道の分かれる草津まで

土方歳三

そうだな、そこまで行って見つからなければ一度戻って来い

伊東甲子太郎

隊を動かすのはそこからでも遅くはないでしょう

近藤勇

総司・・・頼んだぞ

沖田総司

た、・・・頼まれました・・・

土方歳三

礼を言う

伊東甲子太郎

なんの事でしょうか？我々の役目は京都の治安維持、隊が京都を出るべきでは

土方歳三

ない、山南総長一人のために戦力の分散はできない、それだけの事です

土方歳三

そうだな・・・

伊東甲子太郎

沖田君、いつものように、のんびりとして欲しいものですな、

いえ、抵抗されないためにです。のんびり、ゆっくりと

土方歳三

・・・そうだな

沖田総司

山南さん……

山南敬助

沖田君、君が来ると思っていたよ

沖田総司

山南さん……刀も持たずに、どこへ行こうとしていたんですか……

山南敬助

刀はね……あの時、原田君に持って行ってもらった、

あれは……ただの凶器だからね……では沖田君、先に行ってるよ

沖田総司

ど、どこへ？

山南敬助

もちろん………屯所だよ

沖田総司

そ、そうですよね………

山南敬助

沖田君……来てくれたのが君でよかった

沖田総司

山南さん……こんな……こんな感情は初めてです……

山南敬助

沖田君……君にお願いしたい

近藤勇

総司、なぜ連れてきた

沖田総司

山南さんが、来ると言ったから

土方歳三

近藤さんが、お前に頼んだと言ったのはな！

沖田総司

土方さんがそう言ったんじゃないですか！

山南敬助

局中法度、士道に背きまじき事……刀は捨てました

原田左之助

なんでだよ！あなたの力が必要なんだよ！

山南敬助

士道に背きました、逃がせば振り子のように返ってくるんだ

それが命取りになる

伊東甲子太郎

山南さん、隊士を見回らせ、あえて抜け道を用意します

どうか、逃げて頂きたい、局内を手薄にした責任は私が取

山南敬助

局中法度、局を脱するを許さず

永倉新八

山南さん、俺は今から厠に行く、その間にどうか

山南敬助

違反した者には切腹を……沖田君、君にお願いしたい

藤堂平助

山南さん！

松原忠治

三男さん！

一同

山南さん！

河合耆三郎

新選組において、親切者は山南と松原

一同

山南さん！

山南敬助

沖田君、君にお願いしたい

沖田総司

うあああああああ！！！！

沈黙

伊東甲子太郎

春風に吹き誘われて山桜 散りてぞ人に惜しまれるかな

吹く風にしばまんよりも山桜 散りてあとなき花ぞ勇まし

近藤勇

歳……己が散る時も……正直でいたいものだな、山南を見てそう思ったよ

土方歳三

山南さん……あなたは、誠の文字に、ふさわしい漢だったよ

NA…1865年 2月23日 総長 山南敬助 切腹

沖田総司 魂の・・・回廊・・・

坂本龍馬 歴史にたればは無いゆうがぜよ

もし、芹沢鴨が生きていれば新選組はどうなっちゃったかの？たらればじゃもし、山南敬助が生きていればその後どうなっちゃったかの？たらればじゃ土方はん、あんたはこん時に決めたんじゃろ
ここからは下り坂のように転がりはじめたの
コロコロコロコロ、肅清の球転がしじゃ、

河合耆三郎 コロコロコロコロ、松原さーん、飲みましたねえ、ごちそうさまでーす

松原忠治 河合、飲みすぎだぞ

河合耆三郎 ういー・・・千鳥、千鳥の、千鳥足

松原忠治 ほら、掴まれ

河合耆三郎 友情の契りゝ

松原忠治 仕方のないやつだ

河合耆三郎 新選組において、親切者は松原と山南・・・山南さん、山南さーん・・・

松原忠治 おっと

河合耆三郎 痛つつてえなあ

松原忠治 申し訳ない、連れが酔っていてね、ほら、河合、端を歩くぞ

河合耆三郎 おおなんだあ、文句あんのか？松原さんは謝っただろうが

松原忠治 河合やめておけ

河合耆三郎 俺らが誰だか分かってんのかあ、うおっ

松原忠治 貴様！ぬううんん！！！！

河合耆三郎 ・・・・こいつ今、抜こうとしましたね、ありがとうございます

松原忠治 言い逃れはできんだらう、仕方がない

河合耆三郎 酔ってる場合じゃないですね、失礼、身元分かるものは・・・

河合耆三郎 壬生天神横町、安西某・・・

松原忠治 届けるか・・・

河合耆三郎 気が重いなあ・・・よいしょ、体も重い

松原忠治 夜分に失礼する・・・奥方、実は・・・ん？その子供は・・・病気か？

河合耆三郎 ご主人は・・・浪人・・・同士の喧嘩です、私達は止めたのですが・・・

松原忠治 河合・・・

河合耆三郎 誰も得しません、向こうからいちゃもんつけてきて、抜こうとしたんですよ

こっちは何も悪くない、それに、美人の奥さんと子供ほっというて、

松原忠治

自分は酒飲んで酔っ払って喧嘩ふっかけて、逆に切られたなんて、美人の奥さんや子供が可哀そうです、事実を言っても、誰も得しない美人だけは、余計かもしれないですけど、まあ事実ですから

・ ・ ・ 奥方 ・ ・ ・ 心中お察しする、少ないが見舞金というか、香典というか
いえ、これも何かの縁ですから ・ ・ ・

河合蒼三郎

松原さん ・ ・ ・

松原忠治

河合、頼みがある、給金を先にもらえないだろうか

河合蒼三郎

三ヶ月分でもいい、あの子供 ・ ・ ・ 医者に見せねば助からん ・ ・ ・

松原忠治

前借り ・ ・ ・ です ・ ・ ・ か ・ ・ ・

河合蒼三郎

勘定方のお前にしか頼めない

松原忠治

帳簿には付けられませんので ・ ・ ・ うまく ・ ・ ・ 調整します
申し訳ない

河合蒼三郎

いえ ・ ・ ・ こちらこそ、申し訳ありません ・ ・ ・

山崎丞

ふう ・ ・ ・ 見たくない光景でしたね ・ ・ ・

島田魁

斬ったまでは良かったんだが ・ ・ ・ 報告しないわけにはいかんだろう

山崎丞

松原さん、河合 ・ ・ ・ なんて正直に言わなかったんだ ・ ・ ・
ただそれだけの事なのに ・ ・ ・

土方歳三

松原、お前、女を囲っているらしいな

松原忠治

いえ ・ ・ ・ 囲っているわけでは ・ ・ ・

土方歳三

未亡人に貢いでいるという観察型からの報告だが

松原忠治

貢いでいるわけはありません！見舞金と、治療費です ・ ・ ・ 治療費でした

土方歳三

ではなぜ今も通う？

松原忠治

一人で生きてゆくには、今は ・ ・ ・ 支えが必要と ・ ・ ・ 思い ・ ・ ・

土方歳三

抱いたか？

松原忠治

いえ ・ ・ ・ あの ・ ・ ・ 子供の葬儀のあと ・ ・ ・ 手を合わせる私に ・ ・ ・

土方歳三

泣きながら ・ ・ ・ 身を寄せて、来られまして ・ ・ ・

松原忠治

抱いたのか？と、聞いている

土方歳三

だ、抱き寄せ ・ ・ ・ まし ・ ・ ・ た

松原忠治

自分が斬った男の妻をなあ ・ ・ ・ その未亡人からの話も聞かねばな

松原忠治

観察型の到着を待つ、お前はここで待機している

松原忠治

かしこまり ・ ・ ・ ました

松原忠治

あ、松原さんどこ行くんですか？

松原忠治

ちよっと、そこまで

永倉新八

松原、顔色が悪いぞ

松原忠治

ちよっと ・ ・ ・ そこまで ・ ・ ・

松原忠治

あ、松原さんどこ行くんですか？

松原忠治

ちよっと、そこまで

永倉新八

松原、顔色が悪いぞ

松原忠治

ちよっと ・ ・ ・ そこまで ・ ・ ・

松原忠治

あ、松原さんどこ行くんですか？

松原忠治

ちよっと ・ ・ ・ そこまで ・ ・ ・

齋藤一 悩み・・・でもあるのか？聞くだけでよいのなら

松原忠治 その時が・・・くれれば

武田観柳齋 おっと松原さん、軍事についての討論をしないか？

松原忠治 その時が、くれれば

井上源三郎 松原、師範ともなれば大変だろ、たまには飲みにいかないか？

松原忠治 その時が・・・くれれば・・・

谷三十郎 松原さん、うちの組にも薙刀の指南をば

松原忠治 先を急ぐので

藤堂平助 松原さん、うちの隊士が松原さんの異名、今弁慶に対抗して、

俺は今義経だと言ってじゃれあつてましたよ、羨ましいなあ、是非、指南を

松原忠治 先を・・・急ぐので・・・

鈴木三樹三郎 松原さん、池田屋での活躍をお聞きしたいのだが

松原忠治 先を、急ぐので

原田左之助 松原、急ぎか？

松原忠治 急ぎの・・・用事だ・・・誠の文字にかけて

松原忠治 今、帰ったよ・・・申し訳ない・・・正直に・・・事実を告げさせて欲しい

ご主人を斬ったのは、私だ・・・正当な防衛とはいえ、斬ったのは事実

償いの想いも・・・事実・・・君への想いも・・・事実

全て、事実であるがゆえに・・・責任を取らせていただく・・・

本当に・・・申し訳なかった・・・ぐうつつ!!!

つつ・・・つつ・・・き、君は・・・生きてくれ・・・

待て・・・何を・・・待て・・・早まるな・・・そうではない・・・

生きて・・・くれ・・・なぜだ・・・なぜ・・・

NA・1865年 9月1日 四番隊長 松原忠治 切腹

土方歳三 心中か・・・

山崎丞 ・・・・見たくない・・・光景ですね・・・

島田魁 斬ったままでは・・・良かったんだがな・・・

山崎丞 松原さん・・・なんで・・・正直に・・・言わなかったんだ・・・

ただそれだの事なのに・・・

土方歳三 次は、河合だな・・・

島田魁 帳簿に合わない支出があるかと

山崎丞 局中法度、勝手に金策致すべからず・・・

土方歳三 年度の末までは、待ってやろう

河合蒼三郎 ちよ、帳簿・・・ですか？・・・

土方歳三 年度の末だからな、収入と支出の確認だ

間違いの無いように、幹部会で行う

井上源三郎

足りない？

土方歳三

支出が合わない

近藤勇

調査は済んでいるのか？

土方歳三

浪士組出身の観察型では公平性に欠ける、

参謀直属より、九番隊組長、鈴木三樹三郎

鈴木三樹三郎

はい、この加納と共に確認しましたところ、

足りない金は給金と同じ額です

加納鷲雄

なぜか、故、松原忠治の給金三ヶ月分の金が足りません

近藤勇

なぜ今、松原の給金分が足りなくなる？

土方歳三

河合、お前の口から話せ

河合耆三郎

ま、松原さんから・・・三ヶ月分の前借りを頼まれました

原田左之助

え？給金前借りできんの？なら俺もさあ、半年分くらいさあ

永倉新八

左之助！

伊東甲子太郎

勝手に金策致すべからず、帳簿にも付いていない金を、勘定方の君がなぜ？

河合耆三郎

松原さんが・・・子供の病気のため、医者に見せる金だからと・・・

決して私的な流用では・・・なく

土方歳三

そういうのをな、私的な流用というんだ

谷三十郎

これは・・・示がつきませんなあ

近藤勇

なぜ、相談しなかった？

河合耆三郎

な、なんとか、こちらで金額を合わせようと、

土方歳三

三ヶ月分は私の方で戻したのですが、もう三ヶ月分が足らず

原田左之助

もう三ヶ月分？合計、半年分の前借りがあったという事か？

永倉新八

いいなあ！

山崎丞

左之助！

島田魁

それは我々も初耳です

河合耆三郎

松原さんが頼った額は三ヶ月分です

土方歳三

そ、その後、子供の葬式代、遺族の生活費用にと、もう三ヶ月分

谷三十郎

そういうのをな、私的な流用というんだ

近藤勇

示がつきませんなあ

河合耆三郎

なぜ、相談しなかった？

近藤勇

浪人を斬ったのは、酒に酔っていた私にも原因があるため、

河合耆三郎

松原さんの力になれば・・・という個人の考えによるもの・・・です

近藤勇

なぜ・・・相談してくれなかったんだ・・・

河合耆三郎

と、年明けに、きよ、局長の、おとお、お妾となる、深雪太夫をお身請けする

鈴木三樹三郎

費用の捻出と、かかかか、かさ、重なりました・・・

伊東甲子太郎

身請け・・・

土方歳三

近藤さん、局長・・・江戸には妻子がいらっしゃるはずですが・・・

土方歳三

いや、そこは問題じゃねえ、どの藩でもやってる事だ

河合耆三郎

交際接待費として計上され、会津藩にも見せられる帳簿だし、しかし、他からも深雪太夫への身請け話が来ており、

現状では足りませんでしたが、急を要する話であり、局長のお顔を立てるには即座の決済が必要と判断し、戻そうと思っていた三ヶ月分の給金を、

私の懐から出しました・・・ゆえに・・・現時点で新選組内の帳簿では故、松原忠治の給金三ヶ月分の金が、足りません

近藤勇

なぜ・・・相談して・・・くれなかったんだ・・・

河合耆三郎

できませんでした！申し訳ありませんでした！

鈴木三樹三郎

この話の証拠たるもの、整合性は？

加納鷲雄

島原への確認が必要でしょう

土方歳三

奴ら、そう簡単に口を割るかな

河合耆三郎

た、確かに、私にやましい事があったのは事実です、しかし、

藤堂平助

今話した事に嘘偽りはございません！

嘘はついていないと思います、河合は、酒に酔った時、戯言を言う時は逆にまっすぐに目を見て話しますが、正直な想いの時はうつつむいたまま答えます

鈴木三樹三郎

それは証拠にならない

藤堂平助

すいません

伊東甲子太郎

弁護という事で情状酌量の余地にはなろう

河合耆三郎

河合君、その三ヶ月分を返す予定、戻す手立てはあるのか？

伊東甲子太郎

はい、実家が米問屋ですので、その金は用意できます、すでに事情を書いた便りを送っておりますので、近日中には・・・では皆さん、余裕を持って1週間待つというのはいかがでしょうか？

期日は3月28日、それまでに金の帳尻が合えば藩への面目も立つ、故、松原忠治のした事は確かに勝手な金策ではあるが、

河合君のした事は、組織の資金繰りであって私的な借金ではない、よって切腹ではなく除名、もしくは謹慎などが妥当かと

武田観柳斎

さすが！器がでかい！

近藤勇

名案で、あると思う

伊東甲子太郎

ただし、金が戻れば、ですが

近藤勇

信じよう、河合・・・次からは、どうか相談して欲しい

河合耆三郎

はい・・・申し訳ありませんでした・・・

NA・1866年 3月28日

鈴木三樹三郎

1週間が経ちました

土方歳三

金は戻らなかったな

河合耆三郎

そんなはずはありません！便りは確かに送ったのです！

永倉新八

河合、これ以上は、俺も庇いきれん

河合耆三郎

もう少し待ってください！何か事故があったんです！

井上源三郎

河合！これ以上醜態をさらすな！

河合耆三郎

でも！でも！

沖田総司

山南さんはどうなるんですか！ここであなたを許したら、山南さんはどうなるんですか！

土方歳三

河合耆三郎、切腹を申し付ける、いいな？近藤さん仕方がない

近藤勇

河合耆三郎

なんで・・・こんな事に・・・

土方歳三

伊東さん、あんたからは？

伊東甲子太郎

私からは何も・・・ただ、残念です・・・

河合耆三郎

なんで・・・なんで・・・なんで・・・

沖田総司

河合さん、顔を上げてください、解釈ができません

河合耆三郎

なんで・・・なんで・・・

藤堂平助

河合・・・

沖田総司

河合さん・・・山南さん、山南さんは、まっすぐに前を見つめていましたよ

河合耆三郎

山南さん・・・

沖田総司

御免！

沈黙

NA・1866年 3月28日

勘定方…河合耆三郎

切腹

谷三十郎

お見事

土方歳三

谷・・・そういう意味じゃねえだろう・・・

山崎丞

お見事ってのは、そういう意味じゃねえだろう

谷三十郎

苦しまずに、行けたかと・・・

土方歳三

失礼します、河合耆三郎の実家より、便りが届きました

島田魁

読み上げる

息子、耆三郎へ、時間がかかってしまい申し訳ない、

つい先日、私の友人の借金を肩代わりした為、予定より数日かかってしまった。

耆三郎の状況を把握、理解したので金を送る。やはりお前は優しい男だ、

そんなお前が新選組に入隊できた事を誇りに思う。

うっ・・・うっ・・・うっ・・・失礼しました・・・

忙しいと思うが母が寂しがっているので、この件が落ち着いたら顔を出せ。

父より

土方歳三

山崎・・・その金で・・・墓を・・・建ててやってくれ

谷三十郎

見事な墓が立ちますなあ

土方歳三

谷・・・そういう意味じゃねえだろう・・・

山崎丞

土方さん、島原での情報です

谷三十郎は遊女へこのような愚痴を言っております

『新選組には見かけほど強い隊士はいないので、』

いつも自分が先頭に立たされる』と。

ほう

土方歳三
加納鷲雄

それは島原の調査で私も耳にしました、続けて

『原田左之助の槍は私が指南した』と。

土方歳三

ほう

原田左之助

ん？俺？谷から？習ってねえよ

島田魁

彼は池田屋でも階下にいましたからね、先頭にいた記憶はありません

土方歳三

わかった、俺から聞いてみよう、島田、一席用意してくれ

島田魁

承知しました

土方歳三

齋藤

齋藤一

消しますか？

土方歳三

帰り道にでも

谷三十郎

いやはやいやはや、弟万太郎を近藤さんの養子に、今日は土方さんとの親睦
そろそろ私にも総長の座が回ってくる頃かなあ、ぬはああああああっ！

NA…1866年

5月15日

七番隊長…谷三十郎 暗殺

藤堂平助

伊東先生、よろしいでしょうか

伊東甲子太郎

平助、どうしましたか？

藤堂平助

最近、近藤先生・・・局長の在り方に疑問を感じるようになりました

鈴木三樹三郎

その点につきましては私も同意見です

加納鷲雄

同じく

伊東甲子太郎

ふむ

藤堂平助

先日の河合の切腹を始め、組内での肅清が目立ち始めました

鈴木三樹三郎

総長山南敬助の切腹から数えると、倒幕派の志士を斬った数よりも、

新選組内で肅清した数の方が多いという現状にあります

加納鷲雄

隊士の間でも不安の声が広まっています

藤堂平助

伊東先生のお力で規律の改正案などは出せないものでしょうか

伊東甲子太郎

いえ、それは止められないでしょう、今新選組は狂気の道へと

突き進んでいます、それが強さとなって表れているのもまた事実

規律の緩和は組織の弱体化をも意味する

鈴木三樹三郎

しかし、このままではいつか臨界に達します、

むしろ今、飽和状態にあるかと

伊東甲子太郎

どうやらその時が来たようですね

加納鷲雄

その時？

伊東甲子太郎

新選組の任務は京都の治安維持、そして倒幕派の志士を捕縛する事、

しかし薩摩や長州の勢力は日に日に増してゆく・・・

このままでは過激派による天皇の奪還が予想される

現在の幕府の戦力ではどこまで警護しきれるか分かりません
天皇を守護する専門の部隊が必要でしょう

藤堂平助

新選組に天皇警護の部署を作るといふ事でしょうか？

伊東甲子太郎

いえ、幕府は幕府、天皇は天皇、警護のためには
それぞれ独立した組織である方がよい

加納鷲雄

独立した組織・・・

伊東甲子太郎

皇宮警察とも呼びましようか、新選組が京都の治安を守る警察なら
尊王の意思を持つ我らは天皇警護専門の警察組織を作る

名付けて御陵衛士

鈴木三樹三郎

御陵衛士・・・

藤堂平助

かっこいい・・・

伊東甲子太郎

あくまで組織を分けるだけの事です、今、その時が来たといふ事です

近藤勇

御陵衛士？

土方歳三

新選組でおこなえばいいだけの話だろうか？

伊東甲子太郎

しかしながら新選組の部隊は強さを基準に編成しているため、出身や教養で
分けられてはいない、御陵に入るためには組を再編する必要があります

再び長州過激派の進行が予想される今、隊の再編は得策ではない

連携にも混乱が生じるでしょう

一旦は新選組を離脱させて頂くが、戦となれば連携し、

京都の治安を守りましよう

近藤勇

京都は我ら新選組が、皇居の中は伊東君ら御陵衛士が、といふ事だな

分かった

伊東甲子太郎

それでは、また

土方歳三

俺は納得いかねえな、やつら、尊王攘夷派と手を組むつもりじゃねえだろうな

斎藤一

土方さん、伊東一派へと付いていくものが思った以上に出てきています

土方歳三

斎藤、お前を送り込む、新選組として見張っていてくれ

斎藤一

承知しました。しばらくは戻れませんので報告は山崎を使います

土方歳三

頼んだぞ

武田観柳齋

斎藤の野郎、なんであいつが伊東について行けたんだ？俺も行きたかったのに

沖田総司

武田さん、なんで伊東さん達は脱退したのに切腹じゃないんですか？

武田観柳齋

脱退じゃなくて、離脱だからだよ

沖田総司

何が違うんですか？

武田観柳齋

言い方だよ、言い方、世の中はそうやって出来てんの

沖田総司

金を賭けたら賭博だろ、金の代わりに米とか馬を賭けたら賭博にはならないの
賭け事しないんで分からないです

武田観柳齋　　じゃいいよ、分からなくて、一か八か、俺も言ってみようかな
沖田総司　　言うのは自由ですからね

武田観柳齋　　言ってみるか、一か八か、一か八かもいいな、うん

沖田総司　　一か八かいつてみましよう！

武田観柳齋　　沖田くん、抱かせてくれないか？

沖田総司　　え？

武田観柳齋　　いや、抱かれてくれないか？

沖田総司　　誰に？

武田観柳齋　　俺に

沖田総司　　困ります

武田観柳齋　　困るの？なら、抱いてくれないか？

沖田総司　　誰を？

武田観柳齋　　俺を。俺を抱いてくれないか、俺は何もしないから、困らないよね

沖田総司　　困ります

武田観柳齋　　困るの？、困ったなあ、いやでもね、みんなも見たがってるんだよ、

沖田くんのところ、知らないでしょ、考えてる子けっこういるんだよ

町娘からね、沖田くんも土方さんも人気でしょ、人気者の二人の

そういうところ、見たい子達、そんな設定の空想日記書いてる子もいるんだよ

沖田総司　　顔が近いです、鼻息荒いです

武田観柳齋　　一か八か、一か八かやってみるってのも、ばっちゃああああああ！

土方歳三　　局中法度、局を脱するを許さず

NA・1867年　7月23日　五番隊長・武田観柳齋　暗殺

沖田総司　　土方さん、武田さんは離脱なら大丈夫とか言っていましたけど

土方歳三　　言い方の違いだろ、中身が一緒なら同じ事だ、いずれ伊東も、武田のように

沖田総司　　武田さん、最後までよく分かんない人だったなあ

土方歳三　　お前だけじゃない、馬場三郎へも同じように迫っていた、一か八かどうかとな

沖田総司　　馬場に？馬場って16歳ですよ？

土方歳三　　それがいいんじゃないのか？

沖田総司　　分からないなあ・・・あ、そうそう、僕らのそういうところを描いた

空想日記を町娘が書いているそうですよ

土方歳三　　・・・だからなんだ

沖田総司　　一か八か・・・あるんですかね・・・

土方歳三　　空想は・・・人の自由だろう・・・

沖田総司　　土方さん？どうしました？

土方歳三　　空想は・・・人の自由だな・・・

沖田総司 土方さん、土方さん、あれ・・・聴こえないのかな・・・土方さん

坂本龍馬 魂の回廊、今は新選組が見てきたあの時の記憶じゃあ
あの日の出来事が近づいてきちよる

沖田総司 坂本龍馬・・・なんで僕だけが・・・

坂本龍馬 沖田はん、おまんの魂が知りたがっちよるみたいじゃの
その想いがこの回廊へ導き、作り出しとるようじゃ

沖田総司 僕が、知りたいもの、知りたかった事・・・

坂本龍馬 あっはっは、空想も自由じゃけえの、あるなら見届けてみい

何に興味を持とうと人の自由じゃ、それも一興じゃが、それはそれとして
ご覧の通り新選組は分かれたようじゃ

街の治安を維持する警察と、皇居を守る皇宮警察の二つに

皇宮警察になるには文武両道、茶道に華道と芸術にも秀でちよらんと務まらん
その皇宮警察が、伊東甲子太郎の結成した御陵衛士という事じゃ

沖田総司 なんとなく分かりました、伊東さんが、平助が離脱した理由・・・

ほうら、続きじゃ続き、もう止まらんぜよ、時代はのう、そしてわし自身も
止められんがよ

藤堂平助 伊東先生、ありがとうございます

伊東甲子太郎 ありがとうございます？

藤堂平助 伊東先生であれば、新選組のまま皇室警護の案を通せたはず・・・

先生は、隊士のために・・・

伊東甲子太郎 滅多な事をいうものではありません、私は最初から尊王の意思を持っています

尊王、攘夷、鎖国、開国、佐幕に倒幕、これから京都の街は未曾有の

混沌地帯と化す。今、攘夷において最もやっかいな者、

薩摩と長州を結んだ危険人物が京都にやってくる

鈴木三樹三郎 その者の名は？

伊東甲子太郎 坂本龍馬

ええじゃないか、ええじゃないか、ええじゃないか

ええじゃないか、ええじゃないか、ええじゃないか

坂本龍馬 ええじゃないか、ええじゃないか、ええじゃないかあ

薩長同盟、大政奉還、わしの役目も一段落

日本が生き残るには諸外国の力が必要じゃ、技術を取り入れ

文化を受け入れにや飲み込まれてしまっぜよ

伊東甲子太郎 ふすま越しに失礼します、先生の天皇論をお聞きしたい

坂本龍馬 誰かと勘違いしとらんか？

伊東甲子太郎 いえ、才谷梅太郎先生

坂本龍馬 なんぜよ

伊東甲子太郎 才谷先生は、女系天皇についてどう思われますか？

坂本龍馬 これからの時代、四民平等と共に、男女平等、性別にとらわれん時代がくる

女性天皇、女系天皇、大いに結構じゃ

伊東甲子太郎 では、欧米中東で急速に広まる宗教、ムスリムと呼ばれる

イスラム教はご存知でしょうか？

坂本龍馬 宗教にも囚われん時代にならんとのう

伊東甲子太郎 そこでは教祖であるムハンマドの子孫を後継者とする派閥と

血筋にはとられない派閥に分かれ、日々争っております

坂本龍馬 同胞同士での争いはよくないのう

伊東甲子太郎 女系天皇を認めてしまえば、数百年後の日本は、男系の天皇か、

女系の天皇かで日本人同士が分かれ、同胞同士争う事になるでしょう

あなたの考えは日本を壊す事になる、坂本龍馬！御免！

坂本龍馬 ぐふう！わしはもう世界へ出るがよ、海援隊を世界へ、

日本を世界へ、世界の日本へ

伊東甲子太郎 あなたはただの武器商人だ、欧米ではテロリストとも呼ぶ

尊王攘夷、テロリストの排除も我ら御陵衛士の役目

ええじゃないか、ええじゃないか、ええじゃないか

ええじゃないか、ええじゃないか、ええじゃないか

坂本龍馬 ええじゃないか、ええじゃないか、ええじゃないかあ

薩長同盟、大政奉還、わしの役目も一段落じゃあ……

NA・1867年 12月10日 坂本龍馬 暗殺

加納鷲雄 伊東先生、薩摩と長州の者が面会を求めています

伊東甲子太郎 尊王攘夷派として、会わないわけにはいかないでしょう

時代がどのように流れ、政権がどこになろうと皇宮警察の仕事は変わらない

土方歳三 斎藤

斎藤一 戻りました。伊東甲子太郎は尊王攘夷を名目に、薩長との繋がりを得ました

土方歳三 倒幕側との内通を見過ごせるか、新選組総出で肅清を行う

近藤勇 その前に話し合いは必要だろう、歳、一席設けてくれ

新選組の命運を大きくわける舵取り

もし、決裂したとしても平助は・・・逃がしてやってくれ

伊東甲子太郎 近藤先生、恐れ入ります

近藤勇 伊東君、私は今でも、あなたを新選組の一員だと思っている

伊東甲子太郎 形は違えど、この国の治安を守るための同胞である事には変わりはない
その言葉をもらえただけで十分です

近藤勇 幕府と薩長、戦いは避けられぬか・・・

伊東甲子太郎 今の幕府体制では、侍は軍隊と警察、二つの任務を兼ねております

近藤勇 争いは軍に任せ、我らは警察としての治安維持に努めるのが理想なのだが

伊東甲子太郎 武士の誇りはそのままに、それぞれの任務を遂行して生きる

その話は薩長にも致しました。そして、争いになったとしても
御陵衛士の務めは天皇の警護である事に変わりはない、

戦争に赴く事はありませんので、新選組と御陵衛士が刀を交える事はない
しかし何かしらの後方支援は可能でしょう

近藤勇 外の守りは我らが固める、中の守りは任せた

伊東甲子太郎 心に、誠の文字を秘めて

近藤勇 また会おう

伊東甲子太郎 再会を楽しみにしています

土方歳三 近藤さん、伊東・・・その再会はねえよ

侍は侍、軍隊も警察も関係ねえ、侍は主のために戦うだけ

主は徳川幕府、会津藩、そして俺にとっては、近藤さん、あんただ
主を危険にさらす馬鹿がどこにいるんだ、疑わしき者は斬る、
今がその時だぜ、伊東！！！！

伊東甲子太郎 ・・・・土方君・・・君は最初から気付いているのだろう・・・

芹沢鴨、新見錦、山南敬助・・・新選組は・・・最初から・・・

死を呼ぶ存在である事を・・・私はそれを変えたかった・・・

死ぬ覚悟ではなく、生きる覚悟を・・・新選組を・・・生ける存在に・・・

NA・・・1867年 12月13日 参謀 伊東甲子太郎 暗殺

土方歳三 侍と死は切り離せねえ・・・が、それでも生かしてやりたい奴はいるもんだ

永倉新八 隊士には伝えておいた、平助の逃げ道はうまく作っておく

だがな、土方さん、俺はもうこういうのは最後にしたい・・・

新選組はいつから血で血を洗う集団に成り下がった？

これではただの死神ではないか！

藤堂平助

伊東先生！・・・そんな・・・伊東先生、ぐあっつ！！！！

永倉新八
藤堂平助

し、新選組・・・なぜ・・・伊東先生は！
平助！行け！振りむくな！
ぐああああ！！！！

沖田総司

僕の隊には伝えていませんよ・・・山南さんは言っていた・・・
逃がせば振り子のように返ってくるんだ・・・それが命取りになる
総司・・・

永倉新八

NA・・・1867年 12月13日 八番隊長・・・藤堂平助 暗殺

鈴木三樹三郎

はあ、はあ、はあ・・・加納、無事か？

加納鷲雄

ごほっ、あばらをやられました折れているだけです

鈴木三樹三郎

しかし、ごほっ、皆はもう・・・
御陵衛士は壊滅だ、一旦は薩摩藩邸へ向かおう

加納鷲雄

おのれ新選組・・・死神め・・・ごほっ、ごほっ

鈴木三樹三郎

つかまれ

加納鷲雄

死にません、死ねませんよ、このままでは、ごほっ、生きて、
生きようとした者の意地を、果たすまでは・・・ごほっ、ごほっ・・・

沖田総司

ごほっ！ごほっ！！

永倉新八

総司！斬られたのか？

沖田総司

ごほっ！ごほっ！・・・はは・・・僕も・・・死の神に・・・

見入られたようですね・・・

魂の回廊・・・

僕は、死の意味も、生の意味も、分かってなかったのだと思います

坂本龍馬

ええじゃないか、ええじゃないか、ええじゃないかあ

この歌の役目も終わりじゃ、あとは転がり続けるだけ

ココロココロココロ、生と死の戦い・・・戊辰戦争、勃発じゃ

井上源三郎

新政府軍！これ以上は止められない！

近藤勇

新選組！退却！

土方歳三

退却？できるわけねえだろ近藤さん！

近藤勇

刀対刀ではない！相手は鉄砲だぞ！

井上源三郎

新選組が背を向けるわけにはいかんでしょう、
かといって意地のために全滅しては意味が無い

新選組六番隊組・・・井上源三郎、しんがりを務めさせていただく

原田左之助

馬鹿野郎！しんがりは10番隊、俺の役目だろうが！

井上源三郎 左之助、誠の意味で、後ろを担う時は必ず来る、今はお前の出番ではない
土方歳三 源さん！

井上源三郎 土方さん、あなたもですよ、これ以上問答している時間はない
先に全ての返答をさせていただく、何を言われてもお断りです

近藤勇 源さん！

土方歳三 近藤さん・・・こうなったらテコでも動かかねえよ源さんは
熱心ですね・・・さすがだなあ・・・

井上源三郎 誠の一字、この旗がどれだけの血で染まろうと、破れる事はない！

SE…銃弾

NA…1868年 1月29日 六番隊長…井上源三郎 殉職

山崎丞 近藤さん・・・船は・・・こちらです・・・

近藤勇 山崎よくやった・・・帰ってきたら写真でも撮ろうか・・・

山崎丞 密偵には不要ですよ・・・記録にその名も不要です・・・

土方歳三 山崎、もうしゃべるな！傷口が広がる

斎藤一 内臓が、見えてしまっている・・・

近藤勇 山崎・・・記録は不要でも・・・記憶は・・・大切にしろ

山崎丞 では・・・暇が出来た時にでも・・・ゆっくりと・・・

SE…蒸気船

土方歳三 山崎！

永倉新八 山崎！

一同 山崎！

山崎丞 やっとお暇を頂けます・・・沖田さん、いつかの約束・・・写真・・・

一緒に撮れなくて・・・申し訳ない

沖田総司 ごほっ！ごほっ！！山崎さん・・・どこですか・・・山崎さん・・・

近藤勇 山崎は良い奴だった、あいつはこんなに大勢の人に見送られて幸せだ

NA…1868年 2月6日 観察型…山崎丞 殉職

近藤勇 潮時だな・・・歳、俺達を取り囲む大勢の人は、皆、俺の死を望んでいる

ここら辺で終わりにしよう、投降だ・・・終わらせるには俺が・・・

土方歳三 あんたに切腹は似合わねーよ、偽名のままでもいい、大久保さん、大久保大和

俺は援軍を呼びにくく、捕虜でもなんでもいい、新選組は終わらねえ

切腹なんか許さねえからな、いいか、偽名で通せ

近藤勇
新政府軍よ、これも時代の流れだ、幕府軍、大久保大和、投降させて頂く兵士には寛大な処分を求む

加納鷲雄

大久保大和よ、顔を上げよ。情報によりあなたは新選組の近藤勇では？という疑いがあるため、新政府軍薩摩藩預かりの私が尋問させて頂く

．．．．今一度．．．確認させて頂く．．．あなたの名前は？

近藤勇

加納鷲雄

君は．．．．加納鷲雄君．．．だね．．．お久しぶり．．．近藤です

近藤勇

加納鷲雄

なぜ．．．私の名前を．．．
同胞の名を、知らぬはずがないだろう

近藤勇

なぜだろうか．．．君の顔を見て、嬉しく思う。あの頃の事がいろいろと思い出される。このような形で、同胞が生きていてくれて

本当に嬉しい．．．改めて、新選組伍長、そして御陵衛士、加納鷲雄くん

私の名は、新選組局長、近藤勇です。

加納鷲雄

こ、この者の正体は．．．確かに．．．近藤勇です

新選組局長、近藤勇．．．かつての、同胞．．．の顔．．．

新選組であった私が証言します．．．間違いはありません

近藤勇

歳．．．俺で終わりにしよう．．．この戦い．．．千秋楽では黒星だが
長き日々．．．勝ち越した。新選組の戦い、十分に勝ち越しである！

皆、前を見つめて、胸を張るように！

NA…1868年

4月25日

局長…近藤勇 斬首

原田左之助

近藤さんが？．．．そうか．．．勝ち越しか．．．へへ．．．

勝ち越してんなら誰にも文句は言わせねえ、後から誰にも追いつかせねえ

土方さん！あんたは行くんだろう？行くしかねえよなあ！

しんがりは任せろ、しんがりはこの新選組十番隊隊長、

原田左之助が引き受ける うおおおおおおお！！！！！！

SE…銃弾

NA…1868年

5月17日

十番隊隊長…原田左之助 殉職

沖田総司

今日は．．．体が軽い．．．

死の意味も、生の意味も、今なら分かる気がします

いや、そんな事をいったら、また土方さんに怒られそうだな

せつ！せい！せええ！僕は剣に徹しますから．．．ここでは盾よりも剣だ

ごほっ！ごほっ！ごほっ！せつ！せい！せええ！

土方さん．．．最強の．．．援軍が駆け付けますよ．．．

一番隊は・・・今、そのための訓練中です

新選組の・・・稽古は・・・いつも・・・死と・・・隣合わせ・・・

稽古は、実戦を想定して行う、訓練は実戦である！実戦は訓練通りに！

ごほっ！ごほっ！ごほっ！

せっ！せい！せええ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！

せっ！せい！せええ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！

ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！

ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！

ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！

ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！ごほっ！

NA・・・1868年 5月30日 一番隊長・・・沖田総司 殉職

土方歳三

そうか・・・総司は戦って逝ったか・・・

何よりの援軍だな・・・届いたぞ、総司・・・

俺は今、陸軍奉行並なんている、くだらねえ役職にいる

この身分では国なんているくだらねえもののために戦わなきゃいけない

信念よりも人を、自分より人を、人を活かして考えないと務まらない

くだらねえ役職だ。近藤さん、喜べ、総司は間に合ったぞ！

一番隊長、沖田総司！援軍！十分に間に合った！

新選組副長、土方歳三！大千秋楽！参る！

SE・・・銃弾

NA・・・1869年 5月11日 副長・・・土方歳三 殉職

沖田総司

魂の回廊・・・追憶の時間・・・全て・・・見させて頂きました

近藤さん、勝ち越しながら最高じゃないですか

土方さん、大千秋楽、羨ましいなあ、次は僕が努めたいですよ

もう一回やりましょう、何度でもやりましょう

何度でも、駆け抜けますよ！

近藤勇

新選組、御用改めである

全員

うおおおおおおお！！！！

M・・・新選組白書 主題歌

新選組白書 新選組白書 追憶の Honest 終幕